

CONTENTS

特集：

「ジェンダーにとらわれない社会を目指して」

1. 男女共同参画社会がなぜ必要なのか

大阪大学大学院人間科学研究科教授 伊藤 公雄

2. 県民インタビュー

女なら...、男なら...こんな時はどうします？

センター事業報告

・未来館フェスティバル

「あっ感じる 新しい風」～ともに生きるうつくしま～

センター事業紹介

・ボランティア紹介「環境美化ボランティア」

福島県からのお知らせ



「血気は心をつたへて、人生かした未来へ」

男女共同参画社会がなぜ必要なのか

大阪大学大学院人間科学研究科教授
伊藤 公雄

はじめに

20世紀後半から21世紀前半に至る時代の大きな転換は、今後、人類の歴史において、何度も繰り返して想起されることになるだろう。というのも、この二つの世紀をはさんで、私たちの生き方が、根本的な変化を求められたことは明らかだからだ。

実際、日本の社会だけとつても、急激に進行する少子・高齢化、経済のグローバル化、情報ネットワーク社会の進展など、大きな変化の波がすでに開始されている。しかし、この変化に対して、戦後の日本社会の仕組みは、十分な対応力をもっているのだろうか。残念ながら、現状では、この大きな転換に、日本の社会システムは耐え切れないだろう。だからこそ、古い社会システムから、新しい社会システムへの転換が私たちに求められているのである。

なかでも、男女共同参画（ジェンダー平等）の視点は、この転換のひとつの重要な柱である。戦後の「主な稼ぎ手としての男性の長時間労働／（稼ぎ手である場合も含めて）一手に家事・育児・介護を担う女性」という性別分業に基づいた社会システムの問い直しが求められているのである。

ジェンダー・バイアスのもたらしたもの

この性別に基づく分業の背景には、しばしば

男・女という固定的なきめつけ（ジェンダー）による偏見や、この偏見に由来する男性主導という社会的な片寄り、すなわちジェンダー・バイアスが存在していた。「女性は家庭が第一だ」というバイアス（偏見およびその結果もたらされた片寄った社会の仕組み）は、女性の社会参画の障害になり、社会における、女性の生き生きとした能力発揮の機会を奪うことになった。また、他方で、男性たちは、「男は仕事」という縛りのなかで、家庭生活や地域生活を奪われ、ある意味で、人間性あふれる生活とはとてもいえない状況におかれていた人も少なくない。

それにしても、日本では戦後に確立されたこの性別分業の仕組みに、女性も男性もよく我慢したものだと思う。他の国なら、「仕事第一」で家庭を放棄しても頑張り続けるような男性たちに、女性たちが我慢できるはずがない。共に家族を形成したなら、当然、一緒に家のことや子育てをというのが当たり前だからだ。逆に、男性もよく耐えたと思う。ときには大切なはずの家族を捨てても、仕事第一で生きてきたのだから。たとえば、アメリカ人の野球選手たちは、家族が病気になるれば、当然のこととして一時帰国する。「仕事も大事だが、家族はもっと大事」というのが彼らの生き方だ。でも、日本の仕事人間の男性たちは、仕事のために親の死に目にもあえないような人さえいる。

確かに、この仕組みは高度経済成長を生み出した。しかし、経済的な豊かさの一方で、日本

社会が失ったものも大きい。特に、家族の絆や地域のつながりは、すっかり弱くなってしまったのではないだろうか。

男女共同参画社会は

家族の絆を破壊するか

最近、「男女共同参画社会は家族の絆を破壊する」といった声もよく耳にする。しかし、こう考えてくると、話が逆であることがよくわかる。むしろ、戦後の「男は外で仕事、女は家庭」こそ、家族の絆や地域のつながりを破壊してきたのではないかと思うからだ。以前は、男性たちが家庭や地域で活動する姿はよく目にした。しかし、現在では、そうした男性たちの姿を見かけることも少なくなってしまう。「男は仕事」の仕組みが、男性たちから、家庭や地域の居場所を奪ってしまったからだ。

家族の絆をより強め、地域社会のつながりを再建するためにも、むしろ男性も女性も社会参加・参画が可能であるとともに、家庭・地域での参加・参画のできる社会である男女共同参画社会が求められるのではないか。男女の対等で風通しのいい関係を作り出すことで、失われた家族や地域の間をもう一度作り直す必要があるのだ。

男女で家庭・地域が運営される社会が実現すれば、子どもたちにとつても、また、高齢者にとつても、より豊かで人間的な生活が保証され

ると思つ。

少子・高齢社会を前にして

他国に類をみない急激な少子・高齢化が目前に存在している。少子・高齢化による生産年齢人口（元気で働ける人口）の減少は、今後、ますます女性の労働参加を要請することになるだろう。つまり、少子・高齢社会だからこそ、男女共同参画社会が求められているのだ。

こんなことを言うと、「失業率の増加が問題になっている時代に、これ以上労働力を増やしてどうするのだ」という声も出てくるかもしれない。しかし、生産年齢人口の労働力が減少するということは、お金を稼ぐ人、さらに稼いだお金で消費活動をする人が減るといことだ。それはそのまま全体として日本の経済を縮小することにつながるだろう。そもそも、この世代の人口が税金を収め、年金を負担し、社会保障費を支えているのだ。その人口が減るといことは、経済をさらに危機的なものにするだろう。おまけに、こうした世代によって支えられる高



伊藤 公雄 (いとう きみお)

1951年埼玉県生まれ。現在、大阪大学大学院人間科学研究科教授。社会学・ジェンダー論専攻。著書に「男らしさのゆくえ」「男性学入門」「女性学・男性学 - ジェンダー論入門」などがある。大阪府男女協働社会づくり審議会会長代理、内閣府男女共同参画会議基本問題調査会委員などもとめる。

齢者の数は急増する。ということは、少子・高齢社会だからこそ、元気で働く人（税金や年金を負担する人）を増やす必要があるのだ。

ところが、「女性は家庭」の仕組みでやってきた戦後日本社会は、他の国と比べて仕事をしている女性の割合が低い国だ。とはいっても、家庭にいる女性が働きたくないというわけでもない（もちろん、「専業主婦・主夫がしたい」という人の意志は尊重されるべきだ）。政府の調査でも、いわゆる「専業主婦」の人で働く意思をもっている人はきわめて多いのだ。現在働いている人と「働きたい」と思っている「専業主婦」を加えれば、ほぼ九割の女性が働く社会が日本でも実現する。そうなれば、当面、生産年齢人口の減少も大丈夫という計算が成り立つのだ。

問われる生活時間の組み替え

女性の多くが働くようになれば、当然、男性もまた、これまで女性にまかせきりだった家庭参加・地域参加を広げる必要がある。社会参画とともに、家庭・地域での男女共同参画が求められることになる。

しかし、現状のような長時間労働が男女双方に求められるようになれば、育児や介護といった家庭や社会を支える不可欠の労働に手が回らなくなることも明らかだ。そのために、男女両性への労働時間の規制と、男女両性による家庭・地域での生活時間の保証が求められるのだ。すでに少子・高齢社会に突入しているヨーロッパでは、「1日の労働時間を6時間に」という声も出ている。

仕事中は保育所や高齢者介護の社会サービスの充実で支えつつ、短い労働時間の後で、男女共に育児・介護が（さらにボランティアや趣味

の時間も）可能になる仕組みだ。一人あたりの給料は下がるかもしれないが、結婚した男女は夫婦共働きであれば、これまでより経済的に豊かな生活も可能になるはずだ。また、男女ともに家庭・地域生活が保証されるようになれば、（血縁のあるなしにかかわらず）家庭・地域を貫く男女両性の手による共同の子育てや介護も可能になる。子どもたちにとっても、これまでのように主に母子密着型の育児から、父親や近隣の人々との触れ合いが保証されることで、より豊かなコミュニケーションの広がりも生まれることだろう。男女共同参画による新しいコミュニケーションの創出は、地域に生きる高齢者にとって、もプラスに作用するはずだ。

男女共同参画社会で

ゆとりのある成熟社会の実現を

こうした男女共同参画の仕組みができれば、女性たちは、社会という場で、これまで以上にその能力を發揮できるようになるだろう。と同時に、男性たちもまた、仕事だけの人生から脱出して、家族や地域の人たちとの深いふれあいが可能になるだろう。男女ともに、これまでの「男は外、女は家」という片寄った生活スタイルから、よりバランスのいい生活が可能になるのだ。

少子・高齢社会が避けられない21世紀の日本社会に求められているのは、生産性や効率のみを追い求めてきた戦後の生活スタイルを、より成熟したゆとりあるものに変えていくことだ。目先の「お金」よりも、生活の質の豊かさが必要なのだ。男女共同参画という視点が、この転換におけるキーポイントのひとつであることは、明らかなことだろう。

男女共同参画社会の実現とは、「男性は仕事、女性は家庭」といった偏った生活スタイルを見直し、誰もが自分らしい生活のスタイルを選択できる社会を目指すことです。

「男性は仕事、女性は家庭」「女は女らしく・男は男らしく」のような性別についての決めつけは、ジェンダー（「女らしさ・男らしさ」といった性別に関する固定的な決めつけ）による考えから影響を受けています。生活の中に根深く残っているジェンダーこそが、男女共同参画社会の実現を妨げている主な要因であると言えるでしょう。

そこで、このジェンダーを考えるために、普段の生活でよく見られる（言われる）身近な事例について、未来館にいらっやった方たちにインタビューをしてみました。



カップルで出かけるとき、車の運転は男女のどっちがする？

カップルで男女が出かけることになりました。今日はレンタカーでドライブをする予定です。さて、どちらが運転を担当しましょうか？ また、そのように決めた理由は…？

男性が運転する

・男性が運転した方が安心だし、カッコイイでしょう。

(30代女性)

・女性より注意力・判断力に勝っている男性が運転したほうがいい。

(40代女性)

・男性の方が状況把握能力や運動能力に優れているから。

(50代男性)

・一般的に、女性よりも男性の方が運転が上手だから、男性が運転した方がいい！

(50代女性)

車の運転なら、例えば、普通の男性よりも女性プロドライバーの方が状況判断に優れていそう。男性はみんな車の運転が得意であるというわけでもないですし…。

男性が運転するとは限らない

・特に性別では考えません。疲れたら運転を代わればいいと思います。

(20代女性)

・行き先まで詳しい人が運転すればいいと思う。

(20代男性)

・私は運転が好きだから自分が運転します。

(40代女性)

運転席に女性、助手席に男性が座っている光景なんて見かけると、車の運転は、男性に決まっているわけではないと思えます。運転したい方が運転し、疲れたら運転を交代する…というように、どちらか一方に決めない方が楽なのでは？

お客さんが来たとき、女性がお茶を出した方がいい？

職場には、女性だけではなく男性もいます。突然の来客があったとき、女性も男性と同じように仕事を抱えています。それでも女性がお茶を出す理由は…？



女性がお茶を出したほうがいい

・女性がお茶を出す優しい雰囲気になり、場がなごみます。

(30代女性)

・女性の方が感じが柔らかいし、清潔感があるから女性の方が向いていると思う。

(50代女性)

・優しい男性やきれいな男性の男性…逆に乱雑な女性…なんて、けっこういるんじゃないかな。

また、男性がお茶を出そうとしたときの周囲の反応は…。

・会社で男性がお茶出したら私が上司にいらされた。(30代女性)

男性がお茶を出してもいい

・特別、女性がお茶出しが上手なわけではなく、男性でも経験を積みば上手になりますよ。

(50代女性)

・男性・女性に関わらず、お茶の出し方が上手な方がいいと思う。

(50代女性)

・女性に限定することもない。手の空いている方がお茶出しすればいい。自分はお茶出ししていい。

自分はお茶出ししていい。(50代男性)

・男性がお茶出していいという意見もたくさんありました。そう言われれば、おいしいお茶を出すのに性別は関係なさそうですね。

(50代男性)

女なら...、男なら... こんな時はどうします

男性は、

家族を守らなければいけないのですか？

一家の主、大黒柱：父親である男性には
家族を守る義務がある？
なぜ男性は、家族を守らないといけないと思
われるのでしょうか？
その理由は...？

家族は「男性」が守るべき

・ いざという時に守れないと、男性の面子が立たない。(20代男性)
・ 男性には家族を守るという意識と頼られているという自覚を持っていて欲しい。(30代女性)
・ 男性には「ごぞと」といふときに命をはって守るくらいの気持ちを持って欲しい。(40代女性)
・ だてに男に生まれてきたわけではないでしょう。男性は女性を幸せにする必要があると思う。(50代女性)

男性ならば家族を守って当然だとすると、男性であることの重圧は相当なものだと思います。男性には、家族を守るくらいのたくましさ求められるようですが、家族を守るのはたして男性だけなのでしょうか...？

男性だけが守らなくともよい

・ 男性だけではなく、女性も一緒に守らなければいけないんじゃないの？ (10代女性)



・ 実際にできもしないのに「守る」なんていうのは思い上がりだと思
う。共に支え合うべきでしょう。(20代女性)

・ 男性が守るのも当然。女性が守るのも当然。子どもも守るのが当然。家族全員で「家族」を守るべきである。(30代女性)
・ 男性が必要以上に「守らなければ」と思い込んでいるのではないでしょう。女性にも家族を守ることを当然期待してもいいと思います。(40代女性)

家族のみんなが支え合っていること、1人だけに負担が集中すること、となく、その分、楽に生きることができないのではないしょうか？今の時代、経済的にも精神的にも、家族を支えるのに1本の柱ではなく、折れてしまうかもしれませんが、支える柱が2本以上になれば心強いですね。



一般的に、「女らしく」であれば優しさや繊細さ、「男らしく」であれば強さやたくましさなどがその性特有の性質とされ、求められますが、優しさやたくましさは、女性だけ・男性だけに限られた特性ではありません。女性がたくましくあっても、男性が繊細であっても全く問題はありませんが、それはむしろ「自分らしい個性」であると考えられます。インタビューに答えてくださった方たちからのさまざまなご意見には、「女性でも男性でも関係ない」というご意見の方も数多くいらっしゃいました。

優しい人間として生きたい、たくましい人間として生きたいと考えることは素晴らしいことだと思いますが、それを「女らしさ・男らしさ」と結びつけなくともいいような気がします。

ジェンダーにとらわれない「男女共同参画社会」が実現すると、もっと自然に個性を發揮し自分らしく生きていくことができるのではないのでしょうか。

福島県男女共生センター一周年記念 未来館フェスティバル実施報告

「あっ感じる新しい風」

〜ともに生きるうつくしま〜

福島県男女共生センターオープン一周年を記念して、平成14年1月19日(土)と20日(日)の両日にわたり「未来館フェスティバル」を開催しました。

このフェスティバルは、「あっ感じる 新しい風」〜ともに生きるうつくしま〜と題し、多数の県民参加企画によるワークショッップが開催されたほか、二本松北小学校合奏、東和太鼓の演奏、アミーゴ・デ・川俣によるコスミンの演奏などのアトラクションがフェスティバルに花を添え、第二日目には国際政治学者で参議院議員の舛添要一氏と下村満子館長によるトークショーや、「女と男の本音！弱音？」と題したパフォーミングシンポジウムなどが行われました。記念トーク&トークの内容を要約しご紹介いたします。

記念トーク&トーク 平成14年1月20日(日)福島県男女共生センター 研修ホール

21世紀の国際社会の動向と男女共同参画社会

舛添 要一 (参議院議員・国際政治学者)

下村 満子 (女と男の未来館館長)



戦争も文明も、21世紀型にシフト中



下村 本日は、21世紀の国際社会の動向と男女共同参画社会というテーマがついております。私は、女性だから女性の問題しかわからないというのではなく、やはりこれから女性がリーダーシップをとって社会の中で活躍するには、つつい敬遠しがちな経済の問題とか政治の問題をもっと勉強していただきたい。そして、そついうことを頭に入れ、

いろいろな問題に取り組んでいただきましたと考えております。また、一方、男性には、政治、経済のみならず、家庭の問題などこれまで女性の役割といわれたところにも関心を持っていただきたい。それによつて全体のバランスがとれるのだらうと思います。

さて、アメリカでテロ事件のあつた9月11日。あの日を境に世界が変わつた、といろんな学者の方や、評論家の方がおつしやっています。あの事件のとき、どこにいらして、その瞬間何を考えられたのか、その点を。



舛添 東京にいて、私もテレビを見ていました。そして、2機目が来ているという時、あ、これはテロだと直感しました。

1989年にペルリンの壁が崩壊してソビエト連邦がなくなり、資本主義対共産主義、米ソ対立という大国同士の図式はなくなりまして、実は、テロという新しい脅威が存在

します。大国同士の核戦争はないけれど、地域紛争はなくならない。しかも、ここで考えなければならぬのは、国境を越えるということ。国境を越える協力もあるんですが、国境を越える危機というものもあるんです。

下村 これは、ただ一過性の事件というのではなく、20世紀型のある種の戦争のスタイルや形、それから、いろいろな文明など、人間のそつした社会が、これまでの概念から大きく、21世紀型の形に、シフトしつつある。ちようど今、そんな経過の時期なのではないかと思つています。

少子高齢化問題を解決する二つの構造改革案

下村 ところで、日本にとつての深刻で長期的な課題に少子高齢化問題があります。これは、少なくとも、日本人にとつては労働力不足 国力の減退をもたらすと考えられますが、このような中、女性が社会に労働力として出ていき、しかも、外に出て働きながら、かつ子どもを安心して育てていける社会というものが実現

しない限り、私は、この傾向は、変わらな
いだろうと思います。

そのためには、やはり、この21世紀と
いうのは、これまでのように家事育児や
老人介護は女性、外で働くのは男性とい
う、この役割分業を、もつちよつと柔軟
にし、両方が家事育児もし、老人の介護
にも男性が参加する姿というのがやはり
健全な姿ではないでしょうか。

舛添 私は、いまおつしやった事こそ、本
当の構造改革だと思っっているんです。さ
らに、私に構造改革をやれといわれたら
二つ大きな事をやります。

一つは、人生80年時代の人生設計にあ
わせて全部の社会システムを組み替える
ことです。80歳まで生きることを前提に
した社会システムづくりをやるといこと
です。

もつ一つは、東京だけに任せないで地
方でもやるといこと、つまり、中央と地
方の関係を基本的に見直すといこと
です。意識の問題でもそうです。みんな画一
的である必要はないと思っんです。その
ためには、財源も含めて地方の自立をも
つと図るといことが必要なんです。

女性の問題は、年金の改革も含めて、
全部そうなんですけど、夫とセットでし
か考えられていないんです。これを、専
業主婦でも兼業でもかまいません。夫が
いようがいまいがかまいません。その個
人に保険も年金も全部かかってくるとい
うように個人としてとらえることが必要
となるのです。

だから、その二つの問題を解決するた



めの施策を、国も福島
県も市町村もやること
で、相当に違ったこと
ができると思います。

ところで、コンピュ
ータ社会。これが、今
後の生活において非常
に福音になると思いま
す。一つは、場所を選
ぶことなく仕事が行え
ること。さらに、離れ

たところに住んでいる家族の状況も、コ
ンピュータでつながってあればモニター
を見ながら、元気がどうか確認すること
もできます。介護が大変で、夕方に買い
物もできない状況でも、コンピュータで
買い物をする事ができます。少し高く
ともすく配達してくれます。

また、人にはそれぞれ得手、不得手
があります。例えば、掃除が苦手だしま
す。何時間やつても終わらない。その人
が、コンピュータで経理事務を3時間や
って1万円稼いだとします。そのお金の
一部を使って、ハウスクリーニングの専
門の方3人にきてもらったら30分でピカ
ピカにできますよ。得意な分野を活かし、
苦手な部分はアウトソーシングするとい
う選択肢があってもいいんじゃないでし
ょうか。

多様な生き方を 選択できる「いい時代」に

下村 日本はこ存じのよつに、憲法で男

女平等を保障されていますが、アメリカ
の憲法には、いまだに男女平等の条項、
性による差別はしないという条項は入っ
ていないんです。

日本では、その後「男女雇用機会均等
法」や「男女共同参画社会基本法」などが
制定されました。しかしながら、元々そ
うではないのに、伝統文化の名を借りて、
女性差別が現に行われている部分がある
のも事実で、そのようなところは変えて
いかなければいけないと思っんです。

10人いれば10人のライフスタイル、夫
婦の関係、親子の関係がある。多様な生
き方の選択肢、これが用意されていて、
そしてその中で自分はこれを選ぶとい
うことが大事なんです。

さて、ワークシェアリングという言葉
について、最近は一ストラに代わる雇用
減らしの方法という、非常に否定的な意
味で使われていますが、もともとは、もつ
とい意味なのです。つまり夫婦、または
友人が仕事を半々に分け合って一人分の
給料をとり、後はゆとりを持って暮らす
うという考え方です。あるいは100%
働かなくとも、70%の労働で、収入は減
つてもゆつくり暮らす、といことです。
夫婦の両方で、収入も時間も分け合っ
て適度に働くという方が大事なのではと
思っています。

いよいよ時間もなくなりましたけど最
後に、日本の社会がこつなつて欲しいと
いうものがございましてらお願いしま
す。
舛添 女性も障害者も高齢者も若者も、
みんな同じですけど、自分がこつやりた

いということを生きてできる。それ
が、国の制度とか、政治が作った制度で
邪魔されないといこと。それにつきて
思っています。

また、人にはそれぞれ得手、不得手や
限界があります。それを、それぞれが助
け合う。例えば介護でも、それをやるの
は、配偶者であるかもしれませんが、ヘル
パーさんといこともあるでしょう。又
は、介護用の機械かもしれない。機械
にできることは全部機械にやらせてもい
いんではないでしょうか。自分たちがゆ
とりを持って、豊かなこころになれると
思っています。そして、この社会生活にお
いて失いがちな人間性を取り戻すことが
できるのではないのでしょうか。

だから、いい時代が来つたあります。
みんなで力を合わせれば、決して暗い社
会じゃない。明るくなると思っます。
下村 わたしも、明るくなると思ってい
ます。



未来館フェスティバル

4階・第1研修室

体験

“口”からの交流をもとめて

ミッキーマウスの会

歯ブラシを使い、口の汚れ等を取り除く方法等を伝えながら、人との交流を図りました。



4階・第2研修室B

ワークショップ

県立高校の共学化を考える

ふくしま女性フォーラム
ジェンダーフリー教育を考える会

共学化の進捗状況を報告し共に考えました。



4階・第2研修室A

ワークショップ

模擬議会を開催して

川俣町女性団体連絡協議会

第25回川俣町女性大会で取り組んだ模擬議会を開催するまでの過程と事後の活動をメインに報告し、参加者による討論を行いました。



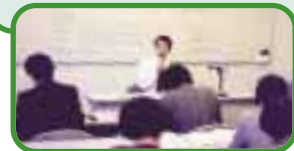
4階・第3研修室

ワークショップ

実効性を伴う「福島県男女共同参画推進条例(仮称)」するには

ふくしま女性フォーラム
「福島県男女共同参画推進条例(仮称)」を考えるプロジェクト

男女共同参画を進めるうえで、本県の地域特性を踏まえた施策とするため参加者を交えて討論しました。



4階・第4研修室

体験教室

折り紙教室

内池和子(日本折紙協会講師)

折り紙をつうじ参加者との交流を図りました。



5階

2階・多目的研修室

実演

お話し会

福島市立福島第三小学校(6年)
小学生のボランティアによる読み聞かせを通じた幼稚園児などの子どもたちとの交流を行いました。



実演

トトロお話の部屋

児童図書研究グループ「トトロ」

手作りの紙芝居や人形などによる読書活動をとおり地域との交流を図っているボランティアグループが実演しました。

5階・調理室

料理教室

玄米ごはん食べっかい!

ネットワーク玄米

玄米ご飯と地元の旬の野菜を使い調理し食生活を見直す。



5階・研修用和室

体験教室

香を聞く会

御家流霞月派

香道についての話と、香木を焚いて聞いてもらいました。



5階・工作室

体験教室

山の幸染め

生涯学習プランニング
ばいんてらす

新感覚の染め物の体験コーナーを設けました。



5階・第5研修室

ワークショップ

あれ!バスがないどうすっぺ?

福島市警青の会

移動(交通)におけるバリアーの実態を具体的に把握し、解決の方策を話し合いました。



1/19(土)

◀ピンク色のジャンパーの
実行委員会の皆さん



未来館フェスティバルで活躍した実行委員の皆さん

今回フェスティバルに参加された県民の皆さんは、未来館を身近な存在として愛着を感じられるようになったのではないのでしょうか。このようなイベントで未来館と県民の皆さんとの間に大きなパイプの橋渡しができたのではないかと思います。

「一番印象に残ったことは何ですか?」
参加者の中でも、フェスティバルのイベントに関わった子どもたちがよりいっそう輝いて見えました。福島三小の「読み聞かせ」もそうですし、「二本松北小の合奏もそうです。川俣町のコスキンにも多くの子どもたちが参加していました。子どものころから、地域の社会活動に参加することはとても意義のあることだと思います。自分の活動をたくさんの人に認めてもらうことや大人たちとともに何かをつくり上げていくことは、「男女共同参画」ということから大変重要なことであると思います。

「限られた予算内で、なるべくお金をかけずにたくさんの方が集まる、にぎやかなイベントを企画するのに苦労しました。二本松北小の合奏やTDネットのバフォーマンスシンボジウムや各ワークショップなど、イベントが大成功だったこととても良かったと思います。」
研修ホールのステージに設置する看板の題字やセンター内に飾りつけたお花もボランティアさんたちのお力によるものです。いたるところでボランティアの皆さんに助けをいただきました。

「未来館フェスティバルでは、企画する段階から当日の会場設営まで、多くのボランティアの方たちが活躍しました。未来館フェスティバルの運営の中心となったフェスティバル実行委員会委員長の木村珠子さんにインタビューしました。」
木村珠子さん
「未来館フェスティバルを終えて、率直な感想はいかがでしたか?」
「限られた予算内で、なるべくお金をかけずにたくさんの方が集まる、にぎやかなイベントを企画するのに苦労しました。二本松北小の合奏やTDネットのバフォーマンスシンボジウムや各ワークショップなど、イベントが大成功だったこととても良かったと思います。」

イベント期間中は、男女共生センター内でワークショップやイベントなど、様々な県民参加企画が行われました。

1/20(日)

ワークショップ
4階・第1研修室
地域通貨でコミュニケーション作り
フリーワーク
地域通貨の理解をつうじて、コミュニケーションをはかりました。

4階・第2研修室A
セクシャルハラスメントの実態や背景から見えてくるものやどうしたら防止できるかを探りました。
ワークショップ
対等なパートナーをめざし、セクハラのない社会を
(社)国際婦人教育振興会・相双



4階

4階・第3研修室
スウェーデンにおける男性の育児休業制度活用の実態を写真とトークで報告しました。
ワークショップ
スウェーデンのパパとうば車
ふくしま女性フォーラムジェンダーフリーの職場プロジェクト

4階・第2研修室B
介護相談
介護ガイドのティールーム
NPO法人まごころサービス福島センター
介護者の悩み相談を通じて、介護の問題について考えました。



4階・第4研修室
実演
朗読・私の生涯の記憶のために
(被爆者の手記より) 風の会
「この子たちの夏」の手記より詩のみを抜粋し朗読しました。
昔話とお話の部屋 語り手たちの会・福島
昔話等の語りを披露し、生活の知恵や男女が共にたくましく生きた様子などを伝えました。

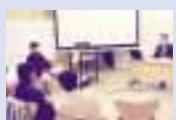


2階

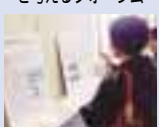
5階・研修用和室
実演
茶道
松風会
日本の伝統文化継承のため茶道の普及をはかりました。



2階・多目的研修室
アメリカのDV加害者再教育の取り組みの実態を紹介し、日本にとっての今後の課題を探りました。
ワークショップ
DV被害者の再教育~アメリカの実態から
ふくしま女性フォーラムDVプロジェクト



5階・第5研修室
ワークショップ
環境問題と新エネルギーを考えるフォーラム
環境問題と新エネルギーを考えるフォーラム
環境問題を通して見えてくる「ひずみ」を認識し、具体的方策を考えました。



5階・調理室
料理教室
カレーフェスティバル
二本松料理クラブ
日食としてなじみの深いライスカレーの試食を通して多くの人との交流をはかりました。



5階・工作室
体験教室
上川崎和紙・和紙漉き体験教室
安達町和紙伝承館
体験をつうじ上川崎手漉き和紙の良さを知ってもらいました。



新スタイルのパネルディスカッション

TDネットのパフォーマンスシンポジウム
「“あっ新しい風”を創るために
楽しく演じよう女と男の本音! 弱音?”



舞台は週刊『未来』の編集部。編集長以下の4名が、自分の体験や価値観を重ね合わせて、男女共同参画を考える上で重要な概念である「ジェンダー」について、いつもの自分ではない人物になりきり、それぞれの役割を演じるという、演劇仕立てのシンポジウムを行いました。
歌あり、笑いあり、熱い議論もあり...そして、会場の皆さんも巻き込んだ「ジェンダーフリークイズ」などで会場は大いに盛り上がりました。



ボランティア紹介

「環境美化ボランティア」

季節感あふれる花々でセンターを彩り、華やかな雰囲気を作り出しています。

環境美化ボランティアで活躍している方に活動の魅力などを聞いてみました。

「ガーデニングが好きなのでこのボランティアの活動をしています。大きなセンターにお花が飾つてあると心が安らぎます。難しい内容の研修に参加された方たちに、このお花を見てもらって、心をなごませていただければいいですね。」

(柴田 ななえさん)

「かわいいお花を生けていると心身共にリフレッシュします。館内にもたくさんのお花を飾りつけていきたいです。」

(橋本 登志子さん)

「気長にできそうな活動だったので環境美化ボランティアの活動をはじめました。お花を植えることが多いですけれど、ほかの植物などもたくさん植えたいと思います。」

(渡辺 幸子さん)



柴田ななえさん(左)、安田広子さん(右)



橋本登志子さん(左)、渡辺幸子さん(右)

「お花が好きでこのボランティア活動をしています。このお花の美しさをセンターにいらっしやる多くの方に見ていただきたいです。」

(安田 広子さん)

「お花を育てたり、生けることが好きでこの活動をはじめました。地元に咲いている野の花などを生けたりしています。ですから地元の方にもっとこのボランティアへの参加を呼びかけたいですね。」

(渡辺 八重子さん)



渡辺八重子さん

今回ご紹介する、環境美化ボランティアは、当センターのプラントに花を植えたり、センター内に花を生けるなどして、センター内の雰囲気になごやかにする活動をしています。

福島県男女共生センター 事業紹介

図書室紹介 ~ 福島県男女共生センター図書室利用案内 ~

福島県男女共生センター図書室は、男女共同参画関連のさまざまな情報を提供しています。ジェンダー学、女性学、男性学、女性史などの分野の図書・行政資料・ビデオ等を収集し、これらの資料は閲覧や貸出しによりどなたでも無料で利用できます。

また、図書室内に設置された情報端末機からは、無料でインターネットによる情報検索をすることができます。

図書室の利用時間について

通常の日 午前9時～午後8時
センター休館日の前日 午前9時～午後5時
休館日について
毎週月曜日、12月29日～1月3日
月曜日が祝日の場合は開館します。その場合、翌日の火曜日が休館日となります。

蔵書整理・蔵書点検のため臨時休館とすることがあります。

貸出冊数・貸出期間について

図書・貸出冊数 5冊 貸出期間 15日以内
ビデオ：貸出点数 3本 貸出期間 8日以内

図書・ビデオを借りるには、「図書利用カード」が必要です。「図書利用カード」の申請は、図書室カウンターで行います。その際に、住所・氏名が確認できるもの(健康保険証・運転免許証・学生証など)が必要となります。

ビデオの団体貸出しについて

当センター図書室では、男女共同参画社会の実現に向けた活動をしている団体の皆さんに、研修や学習会でお使いいただくことを目的として、ビデオの団体向け貸出しもしています。

男女共同参画社会に関するビデオやジェンダー・フリー教育に関するビデオ、職場内のセクシャル・ハラスメントに関するビデオなどがあります。当センターの研修室でビデオの上映会をすることもできますので、ぜひご利用ください。

資料の貸出しやレファレンスに関することは、

福島県男女共生センター図書室

☎ 0243(23)8308

☎ 0243(23)8314

までお問い合わせ下さい。



福島県からの お知らせ

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」が 4月1日から全部施行されます。

DV防止法とは？

これまで、「夫婦間の問題」「家庭内の問題」として見過ごされがちだった夫婦間の暴力「ドメスティック・バイオレンス（DV）」を防止するため、昨年4月6日に成立、10月13日に一部施行されました。配偶者から暴力を受けた場合の通報相談、保護、自立支援などの体制整備や被害者の人権擁護などを主な内容としています。

特に、この法律により、DVの被害者を守るため、裁判所に申し立てることにより、加害者に対し保護命令を出すことができるようになりました。保護命令には、次の2種類があります。

接近禁止命令 つきまとったり、家や勤務先の近くをうろついたりするのを6カ月間禁止すること。
退去命令 2週間家から出ていくよう命令するもの。

DVの被害を受けたとき、 どこに相談すればいいの。

相談は、「配偶者暴力相談支援センター」と「県内各地の警察署」で行っています。この配偶者暴力相談支援センターとは、DV防止法により4月1日から県に設置することになった施設で、配偶者が

らの暴力の防止や被害者の保護のために、次の6つの業務を行います。

- 1 被害者からの相談への対応、
婦人相談員及び相談機関の紹介
- 2 医学的、心理学的な指導
その他必要な指導
- 3 被害者等の一時保護
- 4 被害者の自立支援のための情報提供
その他の援助
- 5 保護命令制度の利用についての
情報提供その他の援助
- 6 被害者保護のための施設の利用に
ついての情報提供その他の援助

福島県では婦人相談所を、のすべての業務を行う中核的な配偶者暴力相談支援センターと位置づけ、さらに県内各地方の保健福祉事務所と男女共生センターをサブセンター的な配偶者暴力相談支援センターに指定し、相談や情報提供などを行うこととしました。

なお、婦人相談所はDV防止法が一部施行された昨年10月13日から右に掲げた6つの業務を既に行っています。

（上記の～の業務のうち、各配偶者暴力相談支援センターで4月1日より行う業務の一覧）

施設の名称	1	2	3	4	5	6	電話番号
福島県婦人相談所							024-522-1010
福島県県北保健福祉事務所							024-534-4155
福島県県中保健福祉事務所							0248-75-7809
福島県県南保健福祉事務所							0248-23-1538
福島県会津保健福祉事務所							0242-29-5278
福島県南会津保健福祉事務所							0241-63-0305
福島県相双保健福祉事務所							0244-26-1134
福島県男女共生センター							0243-23-8320

郡山市・会津若松市・喜多方市・いわき市の各種福祉事務所でも、上に掲げた、の業務を行っています。

料金

室名	1人で利用の場合	2人以上で利用の場合
ツインルーム(19室)	4,200円	3,800円
和室(4人用3室)	4,200円	3,800円

食事料金は含みません。小学生以下は半額です。
(6才未満の幼児が独立して寝具を使用する場合は有料です。)

受付期間

利用区分	受付開始時期
男女共同参画を推進する活動に伴う利用である場合	利用開始日の6ヶ月前
上記以外で研修室等に併せて利用する場合	利用開始日の4ヶ月前
その他利用の場合	利用開始日の2ヶ月前



センターからのお知らせ

男女共生センターの宿泊室は、どなたでも宿泊することができます。



編集後記

『自分らしく生きる。』ときおり、春のにおいの感じられる風の吹く中、もう一度あらためて自分に問いかけてみたいと思う言葉です。
(KT)

・慌ただし朝の時間。洗顔クリームを顔につける私を見た親戚の子とまが一言「男なのにお化粧するの？」

最近、化粧する男性もそんなに不思議ではなくなった(と思う)が、それにしても子どもっていつから「男だから女だから」と考えるようになるのだろうか。

個人的には、「この子がそのことをいつ考えないようになるのだろうか」といつのまにか(OT)

その他研修室の予約など、詳しくは
0243-23-8301まで
お問い合わせください。

access



所在地 / 二本松市郭内一丁目196-1



JR東北本線 二本松駅より徒歩12分
東北自動車道 二本松I.C.より車で5分



風情豊かな城下町から世界へ情報発信

東の阿武隈高地、西の奥羽山脈により中通り、会津、浜通り地方に三分されている福島県は、火山や湖沼・高原・海岸など豊かな自然に恵まれています。ここには、「智恵子抄」にうたわれた「あの光る阿武隈川」や「ほんとの空」があり、人・モノ・文化・情報の活発な交流が行われています。

「女と男の未来館」のある二本松市は、中通りに位置し、提灯祭りや菊人形が催される風情豊かな城下町です。

未来館NEWS NO.5 2002年3月

編集・発行 (財)福島県青少年育成・男女共生推進機構

福島県男女共生センター ~女と男の未来館~

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

☎0243-23-8301(代) ☎0243-23-8312

ホームページアドレス: <http://www.f-miraikan.or.jp>

メールアドレス: mirai@f-miraikan.or.jp

表紙の作品

共生 17pcs. (近藤 康広)

